

国語科学習指導案

安芸高田市立吉田小学校
指導者 教諭 木原 貴子

- 1 日時・場所 平成24年6月 第5学年 各教室
2 学年・学級 第5学年
3 単元名 身近な話題について考えたことをディベートしよう
「根拠や理由を明らかにして話し合う」

4 題材について

○ 単元観

本単元は、互いの考えの違いを大事にしながら、多くの考えを関連付けていく話し合い（討論）を計画的に進めることをねらいとしている。一つの問題を肯定、否定の両方から検討し、他者を納得させるための話し合いを計画的に進める能力を育てるとともに、聞く立場にも焦点を当て、話し手の意見について評価しながら聞く態度と能力を育成することができる単元である。

学習指導要領では、次の指導事項に関わるものである。

「A話すこと・聞くこと」

(2) 内容

① 指導事項

(1) オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

② 言語活動例

(2) イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ 言語の特徴やきまりに関する事項

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

さらに、本単元（討論）の特徴としては、次の点が挙げられる。

① 意見を明確にもつ力を高める→【自己決定の場を与える】

自分の立場を明確にして意見を言うためには、まず、話題についての自分の考えをしっかりとたなくてはならない。このことは、主体的に物事を考える力を育てることにつながる。

② 論理的思考力、判断力を高める→【自己決定の場を与える】

自分の意見を主張する時には、その場の感情的な意見ではなく、合理的な理由がなければ相手に受け入れられない。また、相手の考えを正確に理解するためには、相手の論点をつかみ、自分の考えと比べて聞くということが要求される。このような根拠や理由をはっきりさせて意見を述べたり、相手の意図を考えながら聞いたりする活動は、論理的思考力、判断力を養う。

③ 聞く力を高める→【自己決定の場を与える】【共感的人間関係を育成する】

討論では、聞き手としてそれぞれの発言者の意見とその根拠を理解することが求められる。相手の意図をとらえながら聞くことが、その話題に対する自分の考えを深めたり、新しい考えを発見したりすることにつながる。

④ 計画的に話し合いを進める力を育てる→【自己存在感を与える】【共感的人間関係を育成する】

話し合いは、時間に制限があるため、互いの考えの違いを大切にしながら、決められた時間内にまとめられるよう、発言内容を簡潔にしたり、発言回数に注意したりする工夫が必要となる。このことは、計画的に話し合う力を育てる。

これらの特徴を踏まえ、単元名を「身近な話題について考えたことをディベートしよう」とし、ディベートによる言語活動を行う。

ディベートとは、論題に対して肯定、否定の2組に分かれて、決められたルールや時間に従って議論を行わせ、どちらの主張の方がより説得力があるかを判定するものである。児童は、興味・関心のある論題を取り扱った話し合いに意欲的に取り組み、筋道立てて話したり、話し手の主張を的確

に聞いたりすることを通して、論理的思考力を育むことができる活動である。

以上のことから、児童が自分たちの身近な話題についてディベートを行うことを通して、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う力をつけることができる考える。

- 児童観 (略)
- 指導観

本単元において学習意欲を高め、よりよい人間関係を育成するために、授業で生徒指導の三機能を生かした指導を行う。指導にあたって、次の点に留意する。

自己決定の場を与える

- ① 学習展開では、自分で自分の意見を決定するために、ワークシートを準備し時間を確保することで、自信をもって話し合いができるようにする。
- ② 自分の意見を確実にもてるようにするために、論題は、理由が考えやすいものやそれぞれの立場によって異なる意見が出せるもの、資料が準備しやすいものの中から設定する。
- ③ 意見発表や質問で自分の意見が言えるようにするために、その前段階の話を聞く時、大切なところをメモしながら聞かせる。大切だと思えることを単語（キーワード）で書く、要点をまとめて書くなどの指導を行う。

自己存在感を与える

- ① ディベートでは、司会、記録、時計管理、主張（肯定側、否定側）係の他に、聞くグループを設定して、みんなで協力しながら、それぞれの役割を責任もって果たせるようにする。
- ② 論題に対して、実際の体験を基にしたり資料を調べたりインタビューしたりして、グループで協力して意見を主張できるようにする。
- ③ 机間指導を行い、児童の良い点や頑張っている点を具体的に評価していく。

共感的な人間関係を育成する

- ① グループ活動を取り入れて、友達の考えから学び合ったり、互いに教え合ったりする場面を設定する。
- ② 「聞くグループ」には、特に友達の発言の良さに着目させて、発言内容や仕方について振り返らせる。
- ③ 授業や単元の終末を中心に、相互評価する時間を確保し、お互いの頑張りを認め合えるようにする。

5 単元の目標

- ディベートの意図や方法を知り、進んで話し合いに参加しようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 自分の立場や意図をはっきりさせながら話したり、話し手の意図を考えながら内容を聞いたりして、計画的に話し合うことができる。
【A話すこと・聞くこと オ】
- 討論における言葉の使い方などを理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（カ）】

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
「身近な話題について考えたことをディベートする言語活動」を通じた指導		
○ ディベートの意図や方法を知り、進んで話し合いに参加しようとしている。	○ 自分の立場を明確にし、理由や根拠を添えて話したり、話し手の意図をつかみながら聞いたりしている。 ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。	○ 討論にふさわしい主張や質問の仕方について理解し、話している。

7 指導と評価の計画（全5時間）

次時		学習活動	評価				評価方法
			関・意・態	く・話す・聞く	言語	評価規準	
第一次	第1時	・ディベートのねらいや進め方を知り、話し合い方を理解する。	○		◎	○ディベートのねらいや進め方を知り、進んで取り組もうとしている。 ◎モデルとなるCDを聞いて、良い主張の仕方や質問の仕方を見つけている。	ワークシート 発言
	第2時	・ディベートの準備をする。		◎		◎論題に対して、肯定、否定それぞれの立場で、理由を挙げながら、自分の考えをまとめている。	ワークシート 行動観察
第二次	第1時	・第1回ディベートを行う。		◎	○	◎根拠を基に発言したり、自分の意見と比べながら聞いたりして、計画的に話し合っている。 ○ディベートにふさわしい主張や質問の仕方話している。	ワークシート 発言 行動観察
	第2時（本時）	・第2回ディベートを行う。		◎	○	◎根拠を基に発言したり、自分の意見と比べながら聞いたりして、計画的に話し合っている。 ○ディベートにふさわしい主張や質問の仕方話している。	ワークシート 発言 行動観察
	第3時	・第3回ディベートを行う。		◎	○	◎ディベートの意義を理解し、互いの立場や意図をはっきりさせた話し合いができたか振り返っている。 ○ディベートにふさわしい主張や質問の仕方話している。	ワークシート 発言 行動観察

8 学習内容（本時4／5時）

第二次 第2時「第2回ディベートをしよう」

（1）期 日 平成24年6月

（2）本時の目標

根拠を基に発言したり、自分の意見と比べながら聞いたりして、計画的に話し合うことができる。

ディベートにふさわしい主張や質問の仕方話することができる。

（3）観点別評価規準

根拠を基に発言したり、自分の意見と比べながら聞いたりして、計画的に話し合っている。

【話す・聞く能力】

ディベートにふさわしい主張や質問の仕方話している。【言語についての知識・理解・技能】

（4）準備物

ワークシート 掲示物

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 ◆生徒指導の三機能を生かす手だて	評価規準 (評価方法)
1 前時の振り返りを行い、本時の学習のめあてをつかむ。 進め方にそって第2回ディベートをしよう 2 ディベートの進め方を確認する。	○ 第1回目のディベートで良かった点を紹介することで、本時の活動への意欲付けにする。 【自己存在感を与える】 ○ ディベートがスムーズに進むように、「進め方」を掲示しておく。 ○ 話し手、聞き手のポイントを確認させ、相手意識や目的意識をもって討論をさせる。 ◆ 事前に各自のめあてを決めておき、ディベートでの自分の役割を最後まで果たすようにさせる。 【自己存在感を与える】	
3 ディベートをする。 (1) あいさつ (役割の紹介) (2) 論題のかくにん (3) 初めの主張 (5分) (肯定側, 否定側) (4) 相談タイム(4分) (5) 質問 (5分) (肯定側, 否定側, 聞くグループ) (6) 相談タイム(4分) (7) 終わりの主張 (5分) (否定側, 肯定側) (8) 感想 (8分) (聞くグループからの話) (9) 先生の話 (10) あいさつ	◆ 事前に考えた意見を基にすることで、自分の立場を明確にした発表をさせる。 【自己決定の場を与える】 ◆ 司会アドバイスカードを参考にして、自信をもって進行ができるようにさせる。 【自己存在感を与える】 ◆ 大切だと思う意見はメモをとりながら聞かせることで、自分の考えと比べながら聞いたり話したりできるようにする。 【自己決定の場を与える】 ◆ 聞くグループは、ワークシートを使用し、発言の内容や仕方など、振り返りの観点をしぼることで、友達の意見の良かった点や新たに考えたことや感じたことを発表できるようにする。 【共感的人間関係を育成する】 ◆ 指導者は、それぞれのグループの良い点について具体的に評価する。 【自己存在感を与える】 次のような点について評価する。 ・根拠を基に述べている点 ・責任をもって役割を果たしている点 ・自分の意見と比べながら聞いている点 ・計画的に話し合いができています ・適切な言葉遣いができています	ディベートにふさわしい主張や質問の仕方です。 (発言) 根拠を基に発言したり、自分の意見と比べながら聞いたりして、計画的に話し合っている。 (ワークシート・発言・行動観察)
4 学習を振り返る。	◆ 振り返りの観点を絞り、自己評価、相互評価することで、自分や友達の良さを認められるようにする。 【共感的人間関係を育成する】	